

## 「スター（才能開発ルーム）」の運営を特別支援教育推進の追い風に

校長 吉川 文章

特別支援教室と聞くと「授業で十分に理解ができなかった児童への補足的な意味合い」と受け取られがちなのですが、実は、そうではありません。わたしは、以下の教育理念、方針に立ち、「あおぞらルーム」の名称を来年度から変更して教室を運営していく考えです。

- 全てのお子さん（大人も、私も、みなさんも）は、何らかの発達の特性をもっています。
- その中でも発達の「凸凹」が比較的大きなお子さんは、少なからず困り感をもち一斉授業を受けることとなります。
- 「凸凹」があるということは、より際立つ能力も有しているということです。
- 「スター」では、その能力をさらに高めていくことも目指します。
- 一斉指導の中での困り感を改善するためには、「コミュニケーション能力」を身に付けることが一番の近道です。
- ソーシャルスキルトレーニングなど個に応じた個別や小集団の指導を受けることにより、「コミュニケーション能力」が高まり、集団の中で際立つ能力をさらに発揮できるのではないかと考えています。
- 時間の目安としては、週の内、1, 2時間程度、クラスを離れて、上記のような専門的な支援を受けることとなります。

「スター（STER）」とは、**S**「スーパー」**T**「タレント」**E**「エデュケイト」**R**「ルーム」の頭文字をとった本校独自の造語です。別名として、「才能開発ルーム」とも呼んでいきます。

現代は、「天才が育ちにくい時代」とも言われています。私の夢の部分も入っていますが、「トーマス・エジソン」しかり、「トム・クルーズ」しかり、「スティーブ・ジョブズ」しかり、発達に特性をもち、世界に貢献した（する）**天才たちが、この教室から輩出される**という高い理想をもち楽しく前向きに取り組みを進めてまいります。